

# 災害と男女共同参画

大学非常勤講師・東京大学特任研究員

皆川 満寿美さん

TAMA女性センター市民運営委員会では、2011年9月24日(土)から3回連続で学習会「ジェンダーの現在」を実施しましたが、最終回(10月22日開催)のテーマは「震災とジェンダー」でした。講師の皆川満寿美さんに、改めて「災害と男女共同参画」として原稿を寄せていただきました。

## 皆川 満寿美さんプロフィール

首都圏の複数の大学でジェンダー系授業等を担当。共編著として「『ジェンダー』の危機を超える！」(青弓社、2006年)。東日本大震災に際しては、「『災害・復興と男女共同参画』6.11シンポジウム」実行委員会活動、2011年6月11日に日本学術会議講堂で開催されたシンポジウム当日は総合司会を務める。関連の著作として「日本の災害・復興政策と男女共同参画/ジェンダー平等」(『埼玉自治研』No.36, pp.19-24, 2011年)。NPO法人「女性の安全と健康のための支援教育センター」の「センター通信」にて「ニュースをよみとく」連載中。

2011年3月11日の東日本大震災と福島第一原子力発電所での重大事故から1年がたちました。被災された方々の困難はなお続き、また事態の推移によりさらなる困難も重なり、復興への確かな見通しはなかなかつかない状況にあります。2万人近くの死者行方不明者という「先進国」としては未曾有の被害を出してしまっただけでなく、被災された方々に寄り添いながら、復興への息長い取組みを

行っていくこと、また、二度とこのような大災害を引き起こさないよう、社会全体で取り組んでいくことだと思えます。

**「災害脆弱性」について**

TAMA女性センターを含め、東日本大震災以降、各地の男女共同参画センターで、災害とジェンダー、男女共同参画をテーマに掲げての展示やシンポジウムが盛んに行われていることにお気づきでしょうか？ また、内閣府男女共同参画局ウェブサイトにも、「男

女共同参画の視点を踏まえた東日本大震災への対応について」と題する災害対応ページ(註1)がつけられているのをご存じでしょうか？ そして、2010年に閣議決定された第3次男女共同参画基本計画の第14分野に、4として「防災における男女共同参画の推進」が記載されていることをご存知の方はどれくらいおられるでしょうか？ 実は、このような動きは、国内では、阪神淡路大震災での女性たちの困難な経験がきっかけとなり、始まっているのです(註2)。

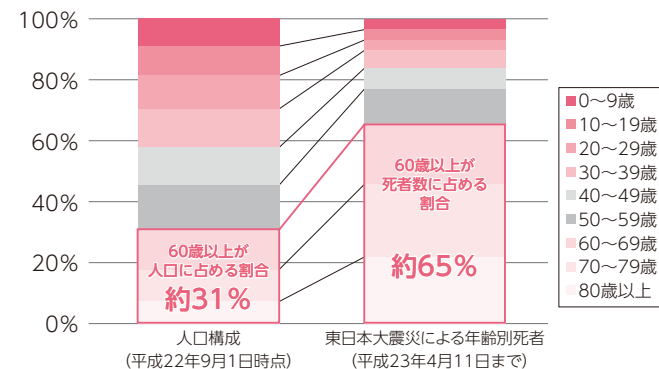
阪神淡路大震災の際には、女性の死者は男性より千人多かったことがわかっており、また、その割合は、高齢になるほど上がって行きます。今回の震災でも、高齢者や障がい者がその他の人々に比べて極めて高い割合で亡くなっています(註3)(グラフ1)。高齢者に占める女性の割合が多いことは、ご存知の方も多いでしょう。

このように、災害において、より被害を受けやすい人々がいることは、国際的にも広く知られており、「災害脆弱性」という言葉によって考察が深められています。災害時、被害は「より弱いところ」に「強く」現れます。したがって、

このような脆弱性をもつ人々について、手だてを講じておくことは、災害時の犠牲者をより少なくすることに直結しています。

避難所での困難については、ご存じの方も多いでしょう。体育館のような大きなスペースに、毛布

グラフ1 東日本大震災における死者と地域人口の年齢構成比較 (岩手県・宮城県・福島県)



2011年版「防災白書」より (警察庁資料、総務省資料より内閣府作成)

註1: <http://www.gender.go.jp/saigai.html>  
 註2: 国の防災計画には、2005年に男女共同参画関連記述が入り、2008年に追記が行われました。また、男女共同参画基本計画では、2005年の2次計画から関連記述が入っています。この年は、新潟県中越地震が起きた年でもありました。  
 註3: 2011年版「防災白書」、P.12。障がい者については、早い時期に内閣府が指摘し、毎日新聞が独自調査から2012年1月30日付け記事で報じている。